令 和 8 年 3 月 2 日
（2026年）

保護者の皆様

吹田市立千里丘北小学校
校 長　小 林　大 介

「千里丘北小学校についての学校アンケート」の結果報告について

立春の侯、保護者の皆様にはますますご清祥のことと、お喜び申し上げます。平素は本校教育にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、昨年12月に実施しました学校教育自己診断（「学校アンケート」）では、ご回答に協力いただきありがとうございました。アンケートの集計及び結果の分析について、以下の通り、ご報告させていただきます。なお、アンケートの結果については教職員で共有し、今後の学校教育に活かしていきたいと存じます。

1、評価の方法について

保護者の皆様を対象に実施したアンケートは、①～⑫までの設問を『学校の教育活動に関するもの』⑬～⑲を『学校経営に関するもの』と分類しております。

アンケートを分析するにあたり保護者向けのアンケートにつきましては「そう思う」「どちらかというとそう思う」という回答を肯定的な評価として判断し、肯定的な評価が80％を超えるものを「概ね満足していただいている」と判断しております。

また、児童向けのアンケートでは低・中・高学年用に分けて実施いたしました。なお、保護者向けと同様に肯定的な評価が80％を超えるものを「概ね満足している」と判断しております。

保護者・児童の両アンケートにおいて80％未満のものにつきましては、特に今後の学校教育活動の中での工夫・改善点として判断しております。

2、アンケートの結果と考察

【保護者アンケート】 回答数540通

1. 数値結果

設問	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。	51.9%	37.8%	6.5%	3.0%	0.9%
	肯定的回答 89.7%				
学校は、学校だより等で教育方針や教育内容を、わかりやすく伝えている。	48.1%	48.7%	1.7%	0.7%	0.7%
	肯定的回答 96.8%				
この学校は、他の学校にはない特色ある教育活動に取り組んでいる。	17.8%	44.6%	10.2%	2.0%	25.4%
	肯定的回答 62.4%				
子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている。	31.5%	51.9%	8.3%	2.4%	5.9%
	肯定的回答 83.4%				
あゆみは、子どもの学力や達成度を適切に評価できるように作られている。	32.6%	56.7%	4.3%	0.7%	5.7%
	肯定的回答 89.3%				
学校は保護者の相談（懇談など）に応じている。	64.8%	30.6%	1.3%	0.9%	2.4%
	肯定的回答 95.4%				
学校行事は、子どもが楽しく意欲的に活動できるように工夫されている。	57.0%	38.3%	1.7%	0.2%	2.8%
	肯定的回答 95.3%				
学校は、自分の生き方を考え、豊かな心　思いやりの心を持った子どもを育てている。	36.1%	51.3%	2.0%	1.7%	8.9%
	肯定的回答 87.4%				
学校は、命を大切にする心や、学校や社会でルールを守る態度を育てている。	41.9%	50.9%	1.1%	1.1%	5.0%
	肯定的回答 92.8%				

学校は、人権を尊重する意識を育てている。	39.8%	49.6%	1.9%	1.1%	7.6%
	肯定的回答 89.4%				
先生は、子どもの努力したことを認めてくれている。	60.4%	33.5%	3.0%	0.7%	2.4%
	肯定的回答 93.9%				
先生は、教育活動において、児童の人権を尊重する姿勢で指導している。	50.0%	39.1%	1.7%	0.9%	8.3%
	肯定的回答 89.1%				
地震や台風などの場合の登下校の対応について、児童や保護者に知らされている。	83.3%	15.9%	0.0%	0.2%	0.6%
	肯定的回答 99.2%				
学校の施設・設備は学習環境面ではほぼ満足できる。	54.6%	36.3%	6.9%	0.9%	1.3%
	肯定的回答 90.9%				
学校では、授業参観を通して、子どもの様子がわかるような機会を設けている。	76.5%	22.4%	0.6%	0.0%	0.6%
	肯定的回答 98.9%				
学校では、子どもに関するプライバシーが守られている。	56.90	35.4%	1.7%	0.4%	5.7%
	肯定的回答 92.3%				
学校は、徴収金の徴収方法やその会計報告をわかりやすく伝えている。	69.6%	28.3%	0.0%	0.2%	1.9%
	肯定的回答 97.9%				
保護者ボランティア組織の活動に参加したことがある。	35.2%	10.0%	7.2%	38.5%	9.1%
	肯定的回答 45.2%				

2.考察

肯定的回答の割合としては「災害時の登下校対応の周知（99.3%）」「授業参観など子供の様子を知る機会（98.9%）」「徴収金の方法・会計報告の分かりやすさ（98.0%）」「学校だより等での方針・内容の周知（96.9%）」「学校行事の工夫（95.4%）」が高い割合を示しました。

また、肯定的回答の少ないものは「保護者ボランティア活動への参加経験（45.2%）」「特色ある教育活動（62.4%）」の2項目でした。「ボランティア活動について」は「参加したいけれど時間帯が合わない」という課題はあると思います。もし、参加についてのハードルの高さを感じたり、行事の認知度合の課題があったりするならばボランティア組織とともに、今後の活動の紹介・連絡について考えていきたいと思います。

「他校にはない特色ある教育活動」についてはそもそも他校の活動についての情報がないということがあるかもしれませんが、学校としては教育活動の内容見直しや、教育活動に対する魅力を体感できる手立ての検討、活動内容を情報発信することに取り組んでいきたいと思います。

3.学校に来ることが楽しくなるように

毎日の学校生活を楽しみに登校してきてくれることが学校にとっても保護者にとっても1番の目標です。今回の調査で「子供は学校へ行くのを楽しみにしている。」の項目の高い肯定率と相関関係にある項目を調べたところ以下の項目が明らかになりました。

- 授業が楽しくわかりやすい
- 学校だより等の分かりやすい周知
- 学校行事の工夫
- 豊かな心・思いやりの育成
- ルール遵守の態度育成
- 努力の承認

授業が学校生活の大半を占めることを考えると「授業の楽しさ・分かりやすさ」が最も大事なのは当然のところです。具体的には学習の見通しの提示や、達成感の可視化する、ペア学習・グループ学習などでは活動⇒言語化⇒共有をセットにして理解の手応えを増やす、形成的評価によって自己肯定感を上げる等を大切にしながら授業改善に取り組んでいきます。また、「豊かな心・思いやりの育成」「ルール遵守の態度育成」については“学校は安心して過ごせる場所なんだ”と感じられることが登校意欲につながるということなのだと思います。引き続き道徳の学習やいじめ予防授業、多文化共生授業などを通して安心を感じられる学校づくりに努めていきます。「学校だより

等の分かりやすい周知」については児童の様子がよく見えることが（安心して学校に行かせることができる）という保護者の方の気持ちにつながり子供の登校を促すことにつながるのだと考えます。学校・学年だよりでは日常的な情報発信の質を高め、わかりやすく学校生活の今をお伝えしていきたいと思います。

4.自由記述から

自由記述欄でいただいたご意見とそれに対する回答を以下にお示しします。すべての項目にはお答えできませんが、いただいたご意見は教職員で共有していますので、今後の教育活動の充実に生かしていきたいと思います。

いただいたご意見	回答
子供のスマホの視聴時間が問題になっていますが、日本ではまだまだ取り締まる動きが鈍く、非常に心配しています。スマホとの付き合い方の出前授業があったり好印象なのですが、親にも視聴時間をアンケートとったり、危機感を持つような案内やお知らせをたくさんしてほしいです。	スマホ教室については保護者の方の参加も可能で、ご案内もさせていただいていますので、今後もご参加いただきますようお願いします。また、スマホの使い方等については本文書でも触れております。ぜひご覧ください。
運動会は、ぜひ全学年でさせてあげてほしいです！保護者は午前、午後と入れ替えでいいので、せめて児童は全学年を一緒に応援する機会をあたえてほしい。どうぞよろしくお願いします。	運動会を全校でというお声は毎年いただいています。私たち教員も全校で開催したいという思いを持っておりますが、運動場が狭いため、全校児童約1000名＋保護者2000名の計3000名が入るのは物理的に困難で、そのためやむを得ず2部開催としています。近隣の中学校や万博競技場でというお声がありますが ＜中学校を使用した場合＞ ・本番のみという訳にはいかず練習で何度か足を運ぶ必要があるが中学校側にも授業があり何回もお借りすることができない。 ・往復で時間がかかり授業時数を圧迫する。 ・各担任だけではなく付き添いの教員を出さなければならないがそのための人繰りが困難。 ・当日、マンション側からの経路が狭小で、危険でありかつ混雑するため時間がかなりかかった。 ＜競技場の場合＞ ・会場借用に経費が掛かる。 ・本番だけの借用という訳には行かず、練習で何度も利用することになる。そうなると借用経費や、往復にかかる時間、付き添い教員の配置等の問題が出てくる。 ・スタンドからフィールドが遠く観覧しづらい。 等の理由から使用を見送っています。
学級閉鎖の連絡がアプリでの通知、返信になっていることが困る。仕事柄、勤務中に自分のスマホを携帯することができない為、返信期限までの時間内に確認をとることができない。毎回電話連絡をしてもらって申し訳ないとは思うが、一定数そういった事情の方はいると思うので、連絡をもっと早い段階で行うなど、配慮をしてもらいたい。	現時点でこの方法しか連絡の仕方がないためにいろいろとご迷惑をお掛けしています。学級閉鎖の判断は学校独自でするものではなく、学校医、教育委員会との連絡調整を経て行うので、閉鎖の決定までどうしても時間がかかります。ご返信がない時は電話をお掛けするような措置もとっておりますのでご理解ください。

道いっぱいに広がって遊んだり、通行人や自転車や車が近づいても退こうとしない子があまりにも多く、命を守る行動ができていない印象を強く受けます。	道路の使い方等については学校でも交通安全教室をはじめとして折に触れて指導しています。子供は学校だけではなく地域全体の中で育つものでと考えますので、そのような場面を見かけられた時に直接注意してやっていただけるとありがたく存じます。
ボランティア活動になって、1年生の給食のお手伝いなど、参観以外でも子供を見られるのは嬉しいですし、積極的に参加しやすくなったと思います。	ありがとうございます。これからも可能な限り児童の様子を見ていただける機会を持ちたいと思います。

★ そのほか、感謝やお褒めの言葉も多数いただきました。ありがとうございました。

- いつも子供が楽しく学校に通っています。ありがとうございます。
- 学校が楽しいと言っていますので保護者としてはほっとしています。 ありがとうございます。
- 子供は授業の事について話しませんが、きっと分かりやすく楽しい授業なんだろうなと参観を通じ感じました。お忙しい中でもこどもに寄り添い、話しを聞いて下さったりと安心して子供を通わす事が出来ています。いつもありがとうございます。
- 日々の学級通信や懇談などで、色々と先生の思いやクラスの様子などを伝えていただいているので、安心して子供を送り出しています。

SNS・ゲーム上のトラブルについて

学校アンケート（児童向け）や生活アンケートでは、「SNSなどでトラブルに遭った」という数字の割合はそれほど多くはありませんが、実際にはさまざまなトラブルが報告されています。適切な使い方をすれば便利なツールですが、誤った使い方をすると大きなトラブルに巻き込まれたりすることもあります。

① 「送信」する前に立ち止まる。

相手の表情が見えず、字面だけで送信される文章は思わぬ誤解を生むこともあります。その内容を相手の人、グループの人が見たらどう思うか、誰かを不快にさせないか、人を傷つけたりしないか、ということを想像し、送信前に立ち止まる行動がとれなければSNSを使うのにはまだ早いと言わざるを得ません。

② オンラインゲームやオープンチャットで見知らぬ人と会話したり連絡をとったりしていませんか？

オンライン上でのトラブルがあり、ある日見知らぬ人が家を訪ねてくるというトラブルが全国では起きています。このような人達は会話の中の何気ない言葉や写真などから住所を特定するそうです。また、求めに応じて裸の写真などを送ってしまうと回収することも完全に消去することもできず、むしろ拡散されてしまう恐れがあります。

③ ゲーム課金などお金の管理は大丈夫ですか？

「親のスマホを使わせているから大丈夫」と安心していませんか？セキュリティーの甘さからクレジットカードが使い放題になってしまい、課金による何十万円という請求が届いたという事例もあります。

④ スマホに支配されていませんか？

お子さんが1日何時間くらい使用しているかご存じでしょうか。「部屋に入って静かだから寝たのかな」と思っていたら朝方までゲームをしていたという例もあります。生活リズムが乱れることによって朝起きづらく登校渋りにつながってしまい、ひいてはスマホを手放すことができなくなって、健康で当たり前の生活が送れなくなってしまうこともあります。

⑤「子供のしたことだから」では済まないことも

未成年の子供がSNSで問題のある書き込みをした場合、保護者は監督義務違反として損害賠償責任を問われる可能性があります。保護者はお子さんが不適切な個人情報の取り扱いや他人への誹謗中傷、個人情報が特定される写真を投稿していないかなど、子供のSNS利用状況を把握し適切な監督を行う責任があります。

⑥ ご存じですか対象年齢

LINEの利用推奨年齢は12歳以上、X(旧 Twitter)の利用対象年齢は13歳以上、TikTokの最低利用年齢は13歳、インスタグラムの最低利用年齢は13歳です。しかし実際には年齢に達していなくても登録できてしまうことがあるので、保護者の目は必要です。

スマホ・携帯電話は保護者の方が契約を結び、お子さんに買い与えたものです。使用上の責任は保護者にあることをご理解ください。

【児童アンケート】

低学年　回答265(無回答含む)

○結果

全体の概要として全15項目のうち12項目で「概ね満足している」という結果でした。特に「じゅぎょうでアイパッドをつかっている。」「こうちょうせんせいのおはなしはわかりやすい。」「がっこうにはよくあそんだりはなしたりするともだちがいる。」「じゅぎょうはわかりやすくたのしい。」などは非常に高い肯定率となりました。

学校生活の基盤に関わる項目では、「がっこうへいくのがたのしい。」「せんせいはわたしたちのいけんやはなしをきいてそうだんにのってくれる。」「がっこうぎょうじはたのしい。」「災害・事件時の行動を学習」など、学習面と生活面の双方で高い評価が確認できました。

一方で「じゅぎょうでよくてをあげる。」「じゅぎょうでわからないことをせんせいにきける。」「がっこうでおうちのひとやちいきのひとといっしょにがくしゅうをすることがある。」の項目については、肯定的回答が80%を下回る結果になりました。

○考察

今年度も、学習・生活に関する多数の項目で前向きな回答が得られました。特に「じゅぎょうはわかりやすくたのしい。」「せんせいはわたしたちのいけんやはなしをきいてそうだんにのってくれる。」「がっこうぎょうじはたのしい。」といった項目の肯定的回答の高さを踏まえ、今後も子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、努力していきたいと思います。

一方で、主体的な学習行動に関連する項目（「じゅぎょうでよくてをあげる。」「わからないことをせんせいにきける。」）は、昨年度からの継続課題となっています。この結果を受け、これからもより一層子どもたちが積極的に学習に取り組める環境づくりを、低学年のうちから精力的に努めていきたいと思います。

中学年回答　250(無回答含む)

○結果

全体の概要として全15項目のうち、13項目については肯定的回答(満足している・概ね満足している)が80%以上となりました。昨年度よりポイントが増加しているのは、「学校には、遊んだり話したりする友だちがいる。」「授業でわからないことについて、先生や友達に聞ける。」「学校行事は楽しい。」「授業は、わかりやすくて楽しい。」「先生は、自分が努力したことを認めてくれる。」「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある。」でした。

一方で、「学校でお家の人や地域の人と一緒に学習することがある。」の項目は、相対的に数値が低く、改善の余地が示唆されました。また、「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある。」の項目については、肯定的回答の数値は低いものの、昨年度よりポイントをあげる結果となりました。

○考察

今年度も、個別最適な学びと協働的な学びの両立に向けた取り組みが進み、「先生への相談のしやすさ」「授業のわかりやすさ・楽しさ」「努力を認める指導」などが高く評価されました。また、学校行事、命の大切さ・思いやり、安全に関する学習、友達関係も引き続き良好でした。

iPad 等の ICT 活用は学習の理解・意欲の向上に寄与しています。一方で、「自分の考えのまとめ・発表」は相対的に低く、発表機会の確保や、安心して表現できる学級づくりの必要性が示されています。

また、「家族・地域と一緒に学ぶ活動」は昨年度より低下しました。今後は、単発の活動ではなく、継続的で系統的な学習機会を計画し、地域や保護者との連携を深める取り組みを進めていきます。

高学年　回答287（無回答含む）

○結果

全体の概要として全15項目のうち、13項目については「概ね満足している」という回答がありました。90％以上の肯定的回答の項目は、「学校へ行くのが楽しい。」「先生は、私たちの話や意見を聞いて、相談に乗ってくれる。」「授業でわからないことについて、先生や友達に聞ける。」「先生は、自分が努力したことを認めてくれる。」「学校や社会のルールについて学習している。」「学校行事は楽しい。」「学校では、命の大切さや、人への思いやりを学習している。」「学校では、事件・地震や火災などが起こった時、どうしたらいいか学習している。」「学校には、遊んだり話したりする友だちがいる。」「授業でアイパッドを使っている。」「あゆみは、わかりやすい。」でした。

その中でも、「学校へ行くのが楽しい。」「先生は、私たちの話や意見を聞いて、相談に乗ってくれる。」「先生は、自分が努力したことを認めてくれる。」の3項目は、昨年度より肯定的な回答が高くなっていました。

一方で、「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある。」「学校でお家の人や地域の人と一緒に学習することがある。」の2項目は、昨年度より肯定的な回答が下回る結果となりました。

○考察

今年度も、多くの項目で前向きな回答が得られ、子どもたちが学校生活に安心して取り組めている様子がうかがえました。日々の授業や友達との関わりの中で、学ぶことの楽しさや、互いに支え合う姿が育ってきていることが、今回の結果にも表れていると感じています。今後も、子どもたちが落ち着いて過ごし、意欲的に学べる環境づくりを大切にしていきたいと思います。

一方で、「自分の考えをまとめたり、発表したりすること」「家族や地域の方と一緒に学ぶ機会」に関する項目については、昨年度よりもやや低い結果となりました。この結果を受けて、授業で話し合い活動や振り返りの時間を工夫し、一人ひとりが自分の考えを安心して伝えられるような場面づくりに一層取り組んでいきます。また、家庭や地域とつながる学習についても、実施しやすい形を検討しながら、子どもたちの学びがさらに深まるように進めていきたいと考えています。

この学校アンケートは、児童（低・中・高別）・保護者・教職員からのアンケート結果から、学校としての課題を整理し、結果を考察し、今後の教育活動・学校運営に活かすためのものとして実施しています。

学校の状況や教育に関する情報は、学校・学年だより、学校ホームページ・ブログなどを利用しながら、日々の子どもたちの様子や学校の取組について、お伝えしていますのでご覧いただけたらと思います。また、家庭からのご質問やご意見がございましたら、いつでも担任までお寄せいただき、大切な情報はしっかりと共有していきたいと思います。

本校では、すべての子の学びを保障し、仲間とつながりながら成長していける人間の形成をめざして、日々の教育活動を進めています。今後もこの目標に向けて特色ある教育活動に取り組むとともに、子どもたちがより意欲的に活動できるよう工夫に努めてまいりますので、ご理解とご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。